

－ 大航海時代と信長・秀吉・家康 －

横浜歴史研究会
2023年6月3日
長尾正和

1. 大航海時代と西欧のアジア到達

1) 大航海時代の始まり

- ①大航海時代（15世紀－16世紀）は西欧人による南北アメリカ大陸およびアジアへの初の到達であり、人類史上初めてグローバルな世界が誕生した時代である。
- ②15世紀末ころまでヨーロッパはまだ中世の時代であったが、次第に各地で中央権力ができ国民国家の統合へ進む。
 - ・ 欧州最西端のイベリア半島では、ポルトガルとスペインがイスラム教徒による領土支配からの回復運動（レコンキスタ）も13世紀には完了。その後両国は国としての力をつけ、14世紀には大西洋に乗り出す。大航海時代の始まりである。
- ③遠洋に乗り出すことができるようになったのには次の要因も働いている。
 - a. 地殻球体説：古代ギリシアですでに唱えられていたが、中世ではその認識が復活する。ただしその大きさはわかってはいなかった。
 - b. アジアについての知識の拡大：13世紀マルコポーロ「東方見聞録」および「プレスタージョン伝説」存在。
 - c. 遠洋航海術の進化：耐航性の高い大型の外洋船の開発。大砲や、多くの積み荷の積載が可能となり、アラブからの羅針盤も導入された。
 - d. 肉食が普及し香辛料需要が増大。
 - e. **1453年**オスマン帝国の東地中海支配始まる。

2) ポルトガルのアジア進出

- ①両国は新規領地でのローマカトリック教の布教と富の確保を目指し対外進出を図る。
- ②ポルトガルは、15世紀初めに「エンリケ航海王子」が熱心に探検事業を支援、**1415年**対岸のアフリカ大陸の地セウタを攻略、その後大陸西岸の南下を繰り返す。

- ・ 多くの失敗を繰り返しながら、70余年ののち**1488年**8月バルトロメウ・ディアスがアフリカ大陸最南端喜望峰に到達。
- ③**1497年7月** ヴァスコ・ダ・ガマは東回りでのアジア航路開拓を目指し4隻の艦隊でリスボンを出航。**11月**アフリカ最南端、喜望峰を回り、翌**1498年3月**イスラム勢力下にあった大陸東岸モザンビーク上陸、さらにマリンディ（現ケニア）からインド洋を直接横断、**5月**インド南西岸コーリコードに到着、西欧の国として初めてインド大陸に到達。
- ④**1500年3月**同国2回目のインド遠征としてペドロ・エルヴァレス・カブラルが出港。途中大西洋で大きく西にそれてしまいその結果**4月**には南アメリカ大陸を発見し上陸する。のちのブラジルである。その後東に向かい喜望峰を回り、**9月**カリカットに着く。
- ⑤2年後**1505年**にはフランシスコ・デ・アルメイダ率いるポルトガル艦隊は、イスラム勢力が制海権を有していたインド洋（アラビア海）での海戦を制しインドとの直接交易の回路を確保する。
- ・ **1510年**同国はゴア（コーリコード北方）を占領、海軍基地を築きアジアの拠点とする。さらに翌**1511年8月**イスラム国家マラッカ（現マレーシア）を攻略し、占拠。ここをアジア貿易の拠点とする。
- ⑥**1512年**香辛料の産地、**モルッカ諸島**（インドネシア）に到達。香辛料の直接貿易が可能となる。
- ・ **1518年**セイロン島、**1523年**ニューギニア上陸。
- ・ ポルトガルは明国に拠点を築くべく幾度となく訪れるが、**1557年**明国との交易は認められなかったがマカオに居住を許される。このあとここをゴアに並ぶ拠点としている。

3) スペインの新大陸発見と世界周航

- ①スペインは、東回りでのアジア到達を目指す。
 - ・ **1492年8月**イタリアジェノバ出身のクリストファー・

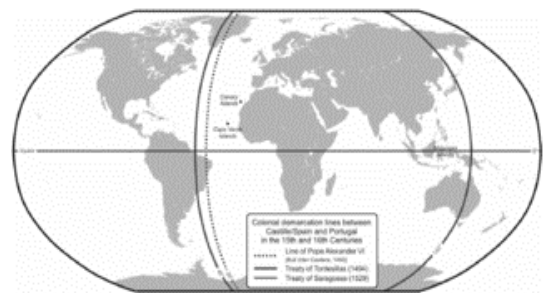
コロンブスは西回りでインド到達は可能と考え、スペイン王室の支援により、3隻の外洋船と90人の乗組員からなる艦隊でスペインを出航する。

- ・ **10月**カリブ海・サンサルバドル島へ到着、これを新大陸発見とする。その後も**1502年**まで計4回の航海を行うが、かれは最後までそこがアジア、すなわちインド大陸の半島の東側の一部と認識していた。
- ②**1519年8月**ポルトガル人**フェルディナンド・マゼラン** 39歳は西航路でのインド到達を目指し、スペイン初代国王カルロス一世の信任を得て5隻のスペイン艦隊と270人の乗組員を率いてセビリアを出航する。
- ・ なお、マゼランはこの14年前**1505年**にはポルトガルのアルメイダ艦隊に代理士官として乗り込んでおり、1509年9月にはコチン（インド南部）からマラッカまで行っている。東航路で東南アジアへすでに到達していた。
- ・ **1520年10月**かれは南アメリカ大陸南端に到達、太平洋に抜ける海路のマゼラン海峡を見つけ、11月末には太平洋に入る。
- ・ このころ、ここはインド湾と認識されていた。太平洋その横断には3か月を必要とした。太平洋の広大さを世界で初めて知ることとなる。
- ・ **1521年3月**にはガム島を経て、**4月**にフィリピン諸島まで到達。しかし、マゼランはセブ島に滞在していた時、対岸の王との争いで戦死する。
- ③残る乗組員たちは航海士でバスク出身のファン・セバステアーン・エルカーノを船長として、出航から3年後となる**1522年9月**スペイン・セビリアに帰国、ヴィクトリア号一隻と14人の乗組員のみであった。ここに初の**世界周航**が実現し、地球が丸いことを実証する。
- ④スペインは**1521年**アステカ文明を滅亡させるなど、このころ中南米において多くの地を植民地化する。
- ⑤アジアでは数回にわたる太平洋横断ののち、**1542年**スペインはレイテ島の領有宣言をしてフィリピンと命名。
- ・ 20余年後の**1565年**マニラからメキシコへ帰還する航路、北太平洋航路がようやく開拓され、太平洋往復航路も開設。**1569年**フィリピン諸島の本格的植民地化が始まり、**1571年6月**マニラが建設される。かれらはアカプルコから中南米の銀をアジアに

運んだ。

4) ポルトガルとスペインの世界分割協定

- ①両国の新世界進出を受けて、ローマカトリック教皇による両国の新大陸分割協定が結ばれる。
第一回は**1494年6月**「トルデシヤス条約」。これで大西洋上の西アフリカ沖カーポベルデ諸島西の子午線の西側で発見した地をスペイン領に、また、東側の地をポルトガル領と決める。
- ②第2回は**1522年**マゼラン艦隊が世界周航を実現し、地球が球体であることが確認されその大きさも知られることになったことにより、**1536年**「サラゴサ条約」が締結された。ここでは両国の領地支配は香辛料の産地モルッカ（現インドネシア・モルッカ諸島）上の子午線により、西をポルトガル領、東をスペイン領にわけることとなる。
- ・ 日本はその線上の北方に位置していた。
- ③このような世界分割協定が成立したのは、両国がともにローマカトリックを国教とする国であり、**ローマ法王**が「**布教保護権**」を彼らに与えたからである。法王は領主が教会を設立するとその所有権を認めるとともに、その維持と布教を課した。これにより新しく発見された地にはその国王に権利を与える形で領土を認めた。
- ・ ただしこの協定は1580年スペイン国王がポルトガル国王を兼務することになり事実上無意味化する。



トルデシヤス条約・サラゴサ条約
出典：Wikipedia

2. わが国への西欧文化文明の到来

1) 西欧人来日と鉄砲伝来

- ① **1543**・天文12年8月種子島に到着した二人のポルトガル商人が西欧人の初来日とされる。
- ・ かれらは当時東アジア海域で勢力を持っていた倭寇王直のジャンク船で来日し、鉄砲（火縄銃）をもたらした。ちなみに、この前年家康が生まれている。
- ②この二人は交易目的で来たと考えるべきであろう。ポ

ポルトガルは鉄砲が大きな交易商品であることを認識し、**1515年**にはインド・ゴアに工場を設立し、原料豊富なインドで鉄等を入手、ヨーロッパから職人を招いて製造した。(WS「日本の武器兵器」)

- ・かれらにとって鉄砲が重要な商品であったのは、日本では金銀が豊かな国であると理解していたためであった。
- ・王直は 1540 – 45 年のころわが国、シャム、南開諸島を往来しており、のち明に追われ **1548年**本拠地を平戸に移している。
- ③島主・種子島時堯はかれらによる実演ののち、鉄砲 2 挺を買い求める。火薬の調合法などその運用の技術も家臣に学ばせ、また、「うち 1 挺を紀州根来寺の杉坊に譲り、…鉄職人にはその形象を熟視させ、新たにこれを製せんとしたい」としている。鑄造法も地元の刀鍛冶に学ばせたのである。(「鉄砲記」)
- ④鉄砲は急速に広まり、薩摩、肥前等、あるいは長州、さらに土佐や阿波など各地で製造されるようになる。刀鍛冶に伝わる日本刀 鑄鉄技術が活かされて大幅な品質改良もすすんだ。銃身の不純物が減り、暴発が少なくなり、精度も大きく向上した。
- ・和泉堺、近江国友では、多くの職人による部品別の分業体制を組み組織的に製造、量産化も進む。この地は 1570 年ごろにはいずれも信長が直轄地として
- いる。
- ⑤これにより日本各領主たちの軍事力には革命ともいふべき変化が起きる。最盛期にはわが国には 30 万挺の鉄砲があり、西欧をしのぐ数であった。結局この到来により、わが国の統一が進むことになる。
- ・ただし、鉄砲の国産化は図られたが、火薬製造に必要なもののひとつ硝石と銃弾に使用する鉛はわが国ではまだ入手が難しく輸入に頼ることが大きかった。この点も堺の商人と宣教師たちが活躍した。

2) イエズス会

- ①わが国に西欧の文化文明についての多くの知見を持ち込んだのはイエズス会の宣教師たちである。
- ・イエズス会は 1534 年、司祭で元騎士であった**イグナチウス・デ・ロヨラ**(スペインバスク生まれ)を中心に、ローマカトリックのもとで生涯を神に捧げることを誓ったパリ大学学友計 7 人の多国籍からなるメンバーで結成された。そのうちの一人が**フランシスコ・ザビエル**である。

- ・希しくこの年には日本では**信長**が生まれている。
- ・かれらはローマ教皇の精鋭部隊と呼ばれ、軍隊的規律の下で宣教活動に専心する。
- ・当時西欧はキリスト教中心の世界ではあったが、宗教改革、すなわちカトリック批判とプロテスタントへの動きが始まっていた。カトリック教会はイエズス会を使ってその影響を拡大しようとした。
- ②ポルトガルの対外進出の目的の第一はカトリックの布教であり、布教を広めてそののちその地をキリスト教国とする考えであった。
- ・アジアでのキリスト教国化の対象は最終的には、大国の明であり、日本であった。
- ・さらにかれらは単なる布教集団ではなく、西欧の軍事革命の成果をアジアに輸出することにもなる。

3) 来日した宣教師

わが国には多くの宣教師が来日する。

- ①**フランシスコ・ザビエル**：スペイン・バスク生まれ。初めに来日した宣教師。1541 年ゴアに、また、1545 年マラッカに入る。
- ・日本に向かったのは、先に日本に来ていたポルトガル商人たちから、「日本の領主がキリスト教に関心を示し、神父の派遣を求めている」、との書状がザビエルに届いたからであるとされる。
- ・かれは薩摩出身の日本人ヤジロウ(アンジロウ)を含む 3 人の日本人を連れ、**1549・天文 18 年 7 月**ジャンク船で鹿児島坊津に到着。その後薩摩、肥前、周防、京、豊後等で宣教活動に携わる。2 年余りのちの **1551 年 9 月**離日。
- ・次の布教目的地は明国であり、上川島(広東省)に行くが 1 年余りのち **1552 年 12 月**病没。享年 46。
- ・かれの日本人観は、「日本人は学ぶことに非常に好きな国民であって…いかなる国よりもはるかにキリスト教



ザビエル像
出典：Wikipedia]

を受け入れる用意がある。」としている。

② **ルイス・フロイス**：リスボン生まれ。1563・永禄6年7月31歳で横瀬浦（長崎・西海市）上陸。信長に初めて接した西欧人である。秀吉も含め多くの武将たちに会い、1583・天正11年からは日本におけるイエズス会の活動の記録に専念、貴重な資料「日本史」を残している。**1597・慶長2年**長崎で没。享年満65。

③ **グネッキ・ソルディ・オルガンティーノ** イタリア生まれ。**1570・元亀元年**5月天草志岐に到着。日本についてもよく学び、明るく、魅力的な人柄で、「日本人は全世界で最も賢明な国民に属す」と日本人に敬意を表した。

- ・ 安土、近江等信長の地を担当。信長にはしばしば会い、高山右近と親交があり、細川ガラシャもオルガンティーノから受洗している。
- ・ 半生を宣教に捧げ江戸時代初期、**1609・慶長14年**長崎で没。享年満76、または79。

④ **フランシスコ・カブラル**：スペイン生まれ。**1570・永禄13年6月**天草志岐に到着。日本でのイエズス会総責任者として来日。かれは日本人に対して敬意を払う姿勢ではないため、大名たちからは敬遠されていたという。フロイスとともに足利義昭、信長、秀吉に会っている。**1583・天正11年**離日。

⑤ **ガスパール・コエリヨ**：ポルトガル生まれ。**1572・元亀3年**来日。**1587・天正15年**肥後八代在の秀吉から呼び出され、奴隷売買について叱責を受けている。

⑥ **アレックスandro・ヴァリニャーノ**：イタリア生まれ。イエズス会総長代理との高い地位、かつアジア地区監督を担当する東インド管区巡察師。

- ・ **1579年7月**口ノ津（長崎・島原）に着く。
- ・ **1581・天正9年**2月初めて信長に謁見。その後を含めかれが信長に会ったのは5回以上であった。

- ・ **1582年**には九州の4人の少年をキリシタン大名の名代とした「天正遣欧使節団」を結成、随行し離日。

- ・ **1590年**秀吉の時



ヴァリニャーノ像
出典：Wikipedia

代にオルガンティーノはこの使節団の帰国とともに再来日。聚楽第で秀吉に謁見。

- ・ **1598年**再々来日、**1603・慶長8年**離日。マカオで没。満66歳。

4) イエズス会の証明構想

① イエズス会はポルトガルの世界進出の先兵としての役割を認識しており、宣教師たちの最終目的は大光明のキリスト教国化とそれによる征服であった。

- ・ その前における日本征服論も根強くあった。しかし、日本の軍事力を知るにつれ、まずは日本のキリスト教化を図り、キリシタン大名を利用して明国征服に乗り出すとの考えに傾いていった。

② **1582年12月**ヴァリニャーノがフィリピン総督あて出した書簡の中では、明国征服につき、「東洋での征服事業のうち、最大のものの一つは閣下（フィリピン総督）のすぐ近くのこのシナを征服することである」としている。

- ・ また、日本征服については「日本の国民は非常に勇敢で、しかも絶えず軍事訓練を積んでいるので征服は困難」とする。さらに「多くの人が明国征服を語り、計画を立てていることを耳にしている。明国征服にとって日本は重要な役割を果たすであろう」と。

- ・ **1583年** マニラ司教がスペイン国王に対し、迅速な軍勢の派遣を要請している。

- ・ **1584年**カブラルはスペイン国王あての書簡で、「もしスペインが明国征服を進めるならば、2-3千人の日本人キリスト送ることができる。・・・かれらは打ち続く戦争に従事し大変勇敢な兵隊である」、とする。

- ・ **1585年** コエリヨはイエズス会フィリピン布教長に、兵隊・弾薬・大砲と大型船の派遣を願っている。キリシタン大名への支援を図ったのである。さらに「日本66か国すべてが改宗すれば、容易に明国を征服できるであろう」としている。

5) 影響を受けた武将たち

① 宣教師たちは、布教に当たりカトリック教会公認の天動説や地球球体説を説き、世界地理の初歩的知識をわかりやすく紹介した。このころの日本では「本朝・唐・天竺」の世界三国観であった。（織田・地図）

- ・ また、もたらした文物には世界図や地球儀なども含まれていた。西欧と世界に関する知識は西国の大名た

ちを窓口として広がっていった。

- ・宣教師たちは布教を、次第に大名を優先とするの方針で行うようになった。このため九州を中心にしてクリスチャン大名が増えるが、一部は宣教師たちを通じて南蛮貿易を確保する道を開くものもいた。
- ② **薩摩 島津貴久**：ザビエルは坊津に上陸の2か月後貴久に謁見。
 - ・貴久は当初この訪問を喜び当初宣教を許可したが、間もなくして禁教に踏み切っている。
 - ・島津家では武士階級にも鉄砲の訓練をした。初めての实战使用は島津氏の大隅国の加治木城攻めである。
- ③ **平戸・松浦隆信**：平戸には明の商人たちも住んでおり、隆信はそこにポルトガル船を招いた。1550年ザビエルは平戸に移りポルトガル船自体も平戸に来航。
- ④ **周防山口・大内義隆**：ザビエルは同年12月義隆に謁見。翌**1551**・天文20年4月義隆を再度訪問、インド総督の親書とともに、置時計、望遠鏡、眼鏡等々を献上。
- ⑤ **豊後・大友義鎮（宗麟）**：**1551**・天文20年9月ザビエルを引見。かれは**1564**・永禄7年11月フロイスに会うなど、その後多くの宣教師に会っている。
 - ・**1578**・天正6年7月カブラルから受洗。
 - ・宣教師たちから見れば強力な支援者であった。かれは大砲（国崩し・フランキ砲）も入手。
- ⑥ **肥前大村・大村純忠**：**1562**・永禄5年ポルトガル人に自領内の横瀬浦港（長崎・佐世保）を提供。**1563**・永禄6年8月トレスから横瀬浦で受洗。初のクリスチャン大名。
 - ・かれは敬虔ではあるが過激でもあり、領内の寺社を破壊。**1580**年長崎を教会領として寄進。
- ⑦ **摂津高槻・高山右近**：**1563**・永禄6年10歳（13歳とも）で洗礼。かれは信仰を貫き通し、高潔な人格とされほかの大名等にも影響を与えた。
 - ・かれは1612年江戸幕府による禁教令でも棄教せず**1614**・慶長19年マニラに追放となり、没している。
 - ・また、カトリックに協力した世界の主要人物の一人として、スペイン・バルセロナ近郊の聖イグナチオ洞窟教会の壁画にその姿が描かれている。

⑧ **肥前日野江・有馬晴信**：1580・天正8年受洗。1582・天正10年（1582年）には大友宗麟や大村純忠と共に天正遣欧少年使節を派遣。

⑨ **肥後宇土・小西行長**：1564年父と共に7歳にして受洗する。

⑩ **播磨姫路・黒田孝高**：1584・天正12年高山右近の勧めで受洗、敬虔なクリスチャンとなった。

⑪ **伊勢松ヶ島・蒲生氏郷**：翌年オルガンティーノが洗礼。

⑫ **美濃岐阜・織田秀信**：信長の嫡孫。**1595**・文禄4年弟・秀則

とともに受洗。ヴァリニャーノは秀信の家来の大勢は信徒であると報告。



シメオン如水印章
出典 Wikipedia

3. 織田信長へのインパクト

1) 信長と宣教師

① 信長が西欧の知見を得たのは宣教師たちである。

- ・**1569**・永禄12年4月 信長の初めての西欧人との出会いは、足利義昭の御所・二条城の普請現場にいた信長をルイス・フロイスが表敬訪問したときであろう。

- ・二人は1時間半から2時間語ったとされている。フロイスに対し「何歳になるか、当地までどれほどの距離であるか等々、もっぱら信長が一方向的に質問する形で進行した。」という。（五野井・フロイス）

- ・翌5月フロイスは岐阜城にいた信長を訪れる。

- ・信長は茶を振舞い、2時間半乃至3時間会話し、4元素（地・水・火・風）について、あるいは寒い土地と熱い土地の特性、国の習慣等々について質した。

- ・フロイスは信長から厚くもてなされことで、宣教師たちへの強力な後ろ盾を得たと受け止め、のちにかれは「庶民等への成果を得るには、初めに国を治める王侯の意思をとらえることが不可欠で、至って必要」と報告する。（五野井・フロイス）

- ・余談ながらこのときフロイスは御殿（岐阜城）とその内部が、自分がこれまでポルトガル、インド、日本で見てきた中でこれに並ぶものは一つもない、と書簡の中で絶賛している。

② 岐阜城にはさらに**1572**・元亀3年1月カブラルと

ともに、また **1574・天正 2 年 3 月**にも訪問している。

- ・ **1575・天正 3 年 3 月** オルガンティーノとともに京都相国寺で信長に会見。
 - ・ **1579・天正 7 年** 信長がオルガンティーノに会った時には、かれが献上した地球儀を持ち出して来日の経路について、またフロイスとは世界について問答を交わしたとする。(織田・地図)
 - ・ **1580・天正 8 年閏 3 月**オルガンティーノは信長から安土城南側に土地を与えられ、建設資材も下賜されて、セミナリオ (小神学校) を建設している。
 - ・ フロイスは、「窮地に陥ると信長に助けを求め、少なくとも 12 回はかれに面会した」とされる。
- ③**1581・天正 9 年 2 月**イエズス会総長代理ヴァリニャーノはフロイス、オルガンティノを同行し、本能寺滞在の信長を訪問。
- ・ 信長は世界地図を見ながら、かれが来た海路を説明させた。さらに信長の求めに応じ、アフリカ系従者 (弥助) を進呈している。
 - ・ **同 2 月** 信長は正親町天皇の行幸も仰ぎ、上京の馬場で「馬揃え」の儀式を挙行する。明智光秀、柴田勝家など重臣総出の豪華な軍事パレードであった。
 - ・ 信長の命でヴァリニャーノも信長の横に座り見学。信長はその力をイエズス会に示そうとしたのである。
 - ・ ヴァリニャーノは、このときの光景について「大量の金と絹が織りなす絢爛豪華な光景は生涯かつて見たことがない」と語ったという。(フロイス「日本史」)
- ④続いてヴァリニャーノは安土に帰還した信長を訪問。フロイスは安土の街と城について感動したことを記している。
- ・ 「街は「庶民と職人の町が築かれ広くまっすぐに伸びた街路は実に長く立派な通りで・・・美しく見事な景観であった」。また、安土城について、「その構造と堅固さ、財宝と華麗さにおいてヨーロッパの最も壮大な城に比肩するもの」「天守と呼ぶ塔はわれらヨーロッパの塔よりはるかに気品があり壮大な別種の建築である」とする。(フロイス「日本史」)
 - ・ このとき信長は建造間もない安土城と街を描いた狩野永徳による屏風絵を贈呈している。信長にとっても貴重なものであり、その際、「非常な遠方から予に関するために来訪した・・・ことを感謝する。記念ならびに親愛の印として、・・・予の屏風を贈呈する。」と述べている。これはのち

に天正遣欧少年使節団によりローマ法王に献上されている。

2) 信長の軍事力

- ①信長が宣教師たちから得たものは軍事力強化のための資材と情報である。
- ・ かれは銃を大いに活用した。鉄砲は刀鍛冶の力により急速に国産化されがその主要製造地の国友や堺は、いずれも信長の領地となっていた。
 - ・ 火薬製造のためには硝石、硫黄等が必要であった。硫黄は国内で入手できたが、硝石と銃弾用の鉛等は国内ではあまり入手できず、多くは輸入に頼った。
 - ・ 信長は宣教師たち、ならびに堺の商人等に協力させ南蛮貿易により、これら軍用資材をほかの戦国大名に比べ容易に、かつ大量に入手した。
- ②**1575・天正 3 年 5 月** 三河・設楽原における**長篠の戦**で信長は 2Km の長きにわたる馬防柵を設け、武田勝頼軍を引き寄せて 3000 挺 (1000 挺とも) の鉄砲隊で勝頼軍の騎馬隊を大敗させたとされている。
- ・ 近年の研究では武田軍は徒歩武者が主力であったとされており (小和田・戦国)、馬防柵は騎馬に備えたというより、足軽鉄砲隊用のものではなかったかともいわれる。
 - ・ いずれにしろ武田勢もこの戦いでも相当数の鉄砲を使用していたことが知られているが、武田勢はその数量、銃の精度、銃弾の量等、いずれも不十分であった。
 - ・ 近年の発掘で武田勢の銃弾には青銅が使われていたが、信長勢は鉛であったこと。その成分分析から当時の大生産地であったタイの鉱山のものであったことが判明している。



復元された馬防柵
出典：Wikipedia

- ③また、このときの戦法の形は戦術革命であったとも評価されるが、西欧では 50 年前ほど前 1503 年 4 月ナポリでの戦い(チエリニョーラの戦い)で、兵力 2000、鉄砲 2000 挺等で待ち構えていたスペイン軍が、重騎兵率いる 9000 のフランス軍をやぶり、火器が勝負を決した最初の戦闘とされている。
- ・ 信長はこの戦いでの戦型や銃の扱い方についての情報を宣教師から得ていたのではないかと考えられている。

3) 石山合戦

- ①信長が宣教師およびキリシタンたちの勢力を大いに活用した戦いの一つが**1580年8月**まで10年ほどにわたる大阪石山本願寺の宗教勢力との戦、「**石山合戦**」である。
 - ・宣教師たちは仏教勢力を敵視していた。かれらの記録でも「(僧侶たちは)キリスト教布教の最大の敵であり、布教活動の妨げとなっている。…仏教が潜在的に有害な存在だった」として、その排除も願っていた。
 - ・この戦いで大きな力があつたのが摂津・高槻城主高山右近である。本願寺は摂津にあつた。信長はオルガンティーノを派遣し、合戦では協力するよう右近の説得にあつている。結局右近を中心に1万人を超えるキリシタンの支援を受けたとされる。(NHK・戦国)

4) 信長の証明構想

- ①イエズス会のアジアでの最終目標である大国・明のキリスト教化と征服について、信長はかれらとの度重なる接触でその意図を知つたであろう。
- ②しかし、アジアからは遠い西欧勢力がそれを成し遂げることが地理的にも困難であることを信長は見抜いていた。
 - ・イエズス会報告には、「あるとき秀吉が信長にイエズス会士は日本を征服し、支配するのを目的とすると話したところ、あのように遠いところから目的を達成するのに十分なだけ兵士が来るのは不可能だと語つたという。」とある。
 - ・信長はかれらに日本までどのくらいの道のりかをも尋ねている。ヴァリニャーノは、「日本とインド・ゴア(ポルトガルのアジア拠点)との往復には3年を要する。」(ヴァリニャーノ「巡察記」と述べたとしている。
- ③信長が明確な証明(明国征服)構想を有していたことがフロイスの記録に残されている。
 - ・フロイスが1582・天正10年2月甲州征伐の跡の時点での話として次のように記している。本能寺の変の2-3か月ほど前である。
 - ・「(信長は)日本66か国の絶対君主となつた暁には、一大艦隊を編成して、**シナを武力で征服**し、諸国を自らの子息たちに分かち与える考えであつた」。(フロイス「日本史」)
 - ・信長のこのような構想は、信長のポルトガルへの対抗心から生まれた、とする意見がある(平川・戦国)
 - ・しかし、信長はこれらに乗り出すには至らず**1582・天正10年6月**本能寺の変で亡くなる。享年49。

4. 秀吉の証明構想と外交

1) 秀吉の朝鮮出兵

- ①秀吉は本能寺の変の後、賤ヶ岳の戦い、四国・九州平定、小田原征伐、さらには奥州仕置等の戦いを経て、わずか6年のち**1589・天正17年**には日本統一を果たす。
- ②2年半後**1592年3月**秀吉は肥前名護屋城から朝鮮・釜山に向けて、小西行長、宗義智を先陣とする16万人とも言われる部隊を出陣させる。いわゆる文禄・慶長の役の始まりである。
 - ・秀吉は朝鮮国王にこの出兵を「仮途入明」(朝鮮の道借りて明に入る)のためと説明している。(北島「朝鮮」)。要はこの戦いは明国征服に向かうための前段階としての位置づけである。
- ③秀吉軍は破竹の勢いで進み、**5月**にはソウルを陥落、さらに**6月**小西行長が平壤を制圧する。しかし、朝鮮王朝の救援要請に応じた明軍の出陣により次第に戦局が硬直化し、1年後**1593・文禄2年春**、一旦休戦となり、明との講和交渉が始まる。5月には明勅使も来日。さらに日本側より答礼使が北京に赴く。
- ④**1596年**閏7月慶長伏見大地震が起きる。
 - ・直後の9月明使節が再来日するが、講和条件が全く守られていないことに秀吉が激怒、再出兵を決める。**1597・慶長2年1月**慶長の役が始まる。
 - ・秀吉軍が苦戦する中**1598・慶長3年8月**秀吉が死去。これにより6年半近くを要した文禄・慶長の役は幕を閉じる。
- ⑤秀吉が朝鮮出兵に至つた動機についてはこれまで諸説が語られている。鶴松、秀長死亡による鬱憤説、功名心説(好戦説/征服欲説)等々である。しかし、いずれも十分な説得力がある話ではない。
- ⑥秀吉は信長に仕えていた過程で、ポルトガルやスペインのアジアでの最終目標が明のキリスト教国化、それによる証明との構想を持っていることを主君とともに、あるいは宣教師たちから学んだ。
 - ・加えて信長が地政学的に見てかれらではそれを実現することは無理と洞察していたことも大いに影響したはず。
 - ・結局のところ、わが国統一という偉業を実現したことで、その力に自信を持つとともに、主君信長の証明構

想を受け、それに自身の征服欲、名誉欲、等も重なって生まれた考えであったのではないだろうか。

2) 秀吉のスペイン・ポルトガル外交

①秀吉の外交から見ると、かれはポルトガル、スペインに支配されることがあり得るとは全く認識しておらず、むしろ、自らの国力、軍事力に大いなる自信を持ったのか、スペイン、ポルトガルによるアジア支配に挑戦しようとしている。明国のみならず、南蛮、天竺征服構想をも持っていたとされる。

②秀吉が明国征服について初めて公にしたのは、歴史史料からは信長没のほぼ4年後、天下統一も成し遂げ**1585・天正13年7月**関白就任直後、家臣にあてた書状であるとされる。

③翌年**1586・天正14年5月**にはこの構想を大阪城を訪れた宣教師たちに語っている。

・ イエズ会準管区長コエリヨが、フロイス、オルガンティエーノ等30名と共に大阪城に登城したとき、秀吉は大変ご機嫌で、一行は大歓迎を受ける。その席で、秀吉は自らの考えを次のように述べた。(フロイス「日本史」)

- ・ 「予は…すでに最高の地位に達し、日本全国を帰服せしめた上に、もはや領国も金も銀もこれ以上獲得しようとは思わぬし、その他何者も欲しくない。
- ・ ただ世の名声と権勢を死後に伝えしめることを望むのみである。日本国内を無事安穩に統治したく、それが実現した上は、この日本国を弟の美濃殿(羽柴秀長)に譲り、予自らは専心して**朝鮮とシナを征服**することに従事したい。…
- ・ シナを征服した暁には、その地の至る所にキリストの教会を建てさせ、シナ人はことごとくキリシタンになるように命ずるであろう。その上で日本に帰るつもりである、と。…」。

④ 5年後**1591・天正19年閏正月**、天正遣欧使節団の帰国とともに再来日したヴァリニャーノが、インド副王(ポルトガルインド総督)使節の肩書をもって聚楽第で豊臣秀吉に謁見、親書を提出。秀吉はその返書でも、次のように記している。

- ・ 「予は近く**大明国に出兵し、これを征服**する。しからば貴国とはさらに近づくので交誼を深めたい。わが国は神国なのでパテレンによる布教は禁止する。しかし、修好を保持し、商人が往来することはこれを許す。」

⑤ 一方でこの**年末**、秀吉はフィリピンの防衛が手薄で

あることも知ったためか、マニラ総督に朝貢と服属を要求する次のような国書を出している。

- ・ 「高麗人…そのほか遠方の諸国はすでに予に帰服して貢を納む。予は今、**大明国を征服**せんと欲す。
- ・ その国(フィピン)は今予と親交を有せず、よって予は行ってその地を取らんと欲す。これ旗を倒して予に服従すべき時なり。もし服従すること遅延せば予は速やかに征伐をくわべし。後悔することなかれ。」

・ フィリピン総督はすでに日本の軍事力を認識しており、この書状に非常に驚き、これに対しマニラに戒厳令を布くとともに、メキシコに対し援軍派遣要請をするなど非常事態を宣言。

・ 翌**1592・文禄2年末**、この脅威を避けるべく、総督は返書を、文禄の役のために名護屋に在陣していた秀吉まで届けている。

⑥文禄の役で出陣の軍がソウルを陥落させた、との報を受けてその直後**1592年5月**秀吉は明国支配の構想について、次のような内容の全25か条の覚書に関白秀次に出している。明国征服を確信したのであろう。

- ・ 来年正月から2月ごろ秀次は大明国へ出陣するための用意をすること。
- ・ 明国を制定したら秀次を大唐関白の職に任ずる。
- ・ 明後年には後陽成天皇が北京へ行幸できるようにする。
- ・ 天皇には北京周辺の10か国を進呈し、諸公家衆にも知行を与える。
- ・ 天皇が北京に移った後はその弟に即位してもらう。

・ さらに明征服の後、秀吉は寧波に居所を置いて天竺まで手に入れる構想があることを伝えている。(北島「秀吉」)

⑦朝鮮では講和交渉がまとまらない中、**1596年**スペイン船サンフェリペ号が土佐に漂着、その後の取り調べの際に乗組員が「スペイン国王は布教と征服を目的としている」と証言したため、秀吉は禁教令を出す。

・ **1597年2月・慶長元年12月**これにより宣教師3名、修道士3名ほかの日本人信徒20名を処刑、いわゆる「26聖人殉教」事件であり、これによりスペインとはさらに厳しい関係となる。

5. 家康の対外政策と大坂の陣

1) 朝鮮撤退

①秀吉の死後、5大老の合議で朝鮮戦役停止を決定、

部隊を撤収させる。

②家康は、朝鮮との国交回復を図り、関ヶ原の戦いの7年後、**1607年**には正式な回答使が来日、回復が実現する。

・このあとも家康は各国との開かれた外交を進める。

2) オランダ・イギリスとの外交

① 西欧では、この少し前の16世紀末ころ、各国の勢力図は大きく替わった。

・**1588年**英仏海峡・アルマダの海戦でスペイン無敵艦隊がイングランド海軍に敗れ、大西洋の制海権を失う。

・秀吉が没した同じ月に、奇しくもスペイン帝国の最盛期を率いたフェリペ2世が亡くなる。スペインの国力は衰退し、代わってイギリスとオランダがアジアに進出する。

② 家康によるその後の覇権確立過程にはこれらの国との外交が大きく影響する。

・関ヶ原の合戦のほぼ半年ほど前の**1600年4月**オランダがアジア進出のために太平洋を經由して派遣したリーフデ号が途中遭難、豊後に漂着する。

・長崎奉行は積み荷の大砲、火縄銃、弾薬を没収したが、5大老首座であった家康の指示により英人・ウィリアム・アダムスなどの乗組員は大阪へ護送され、船も回航させた。

・在日宣教師たちは乗組員たちの処刑を要求したが、家康はこれを黙殺、かれらに会い、イギリス、オランダの国際的位置付けを理解し、かれらを釈放し、さらに江戸へ招いている。

・家康はアダムスの人としての教養、知識等々を見抜いたのであろう、**1605・慶長10年**旗本・三浦按針の名を与え相模三浦郡250石の領地で旗本とする。

③**この年**、家康は征夷大將軍の地位を秀忠に譲り大御所となり、**1607年**には駿府を居城とする。外交は駿府城で行われた。

・**1609・慶長14年**オランダ総督の国書を持った使節が来日、駿府で家康に謁見、平戸での商館設立を認められる。

④ スペイン、ポルトガルとはいったん距離を置いていたが、**1609・慶長14年**9月スペイン総督ロドリゴ・デ・ペドロ（ドン・ロドリゴ）を乗せたサンフアンシスコ

号がメキシコに帰る途中上総大多喜藩御宿沖で難破し、救助。

・かれは江戸で秀忠に会ったあと駿府で家康に謁見。その後、アダムズが家康の命により建造した外洋船が提供され、これにより帰国。

・スペインはこの家康の対応を評価し、**1611・慶長16年**スペイン国王は家康に答礼使・セバスティアン・ビスカイノを派遣している。8月には駿府城で家康に謁見。

・余談ながらこのときの贈り物が現在日光東照宮に納められている洋時計（重要文化財）である。

・また、ロドリゴもビスカイノも江戸や駿府の街や城郭について感嘆している。

⑤**1613・慶長18年**イギリスは、アダムスが出した本国への書簡を受けて、国王の国書を持った使節ジョン・セーリスが来日、8月駿府で家康に謁見、9月には英国との通商許可が出され、平戸にイギリス商館も開設される。

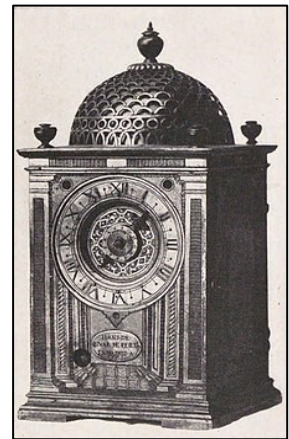
3) 大坂の陣

①**1614・慶長19年12月**大坂冬の陣では家康軍がかれらから入手した大砲がその決着をつけた。豊臣軍も火縄銃で応戦したが、ここでは大砲が決め手となった。

・この戦で家康はお互いの損害が多くなることを考え、途中和議交渉が行われたが、淀殿は応じなかった。ここで戦況を一挙に変えたのが、大阪城天守閣に打ち込まれた砲弾である。

・このとき淀殿侍女8人いる場所に命中、全員が亡くなる。この凄惨な姿を見て淀殿は和議に向かったとする。

②家康軍は国友製の火縄銃も使ったが、6月頃にはイギリスよりカルバリン砲4門、セーカー砲1門を購入し、直前にはオランダ製4・5貫目の大砲12門（半カン砲に比類）等も到着していた。



家康への寄贈時計・日光東照宮蔵
出典：Wikipedia

- ・ 天守閣に届いた砲弾はカルバリン砲によるものであったと考えられている。これまでの大砲に比べ圧倒的に射程距離が長く、3 kmはあったとされる。
- ・ 翌 **1615・慶長 20 年 5 月**の大坂夏の陣で、家康は旧豊臣勢力を完全に抑え、ここより徳川政権による長期安定・平和社会が始まる。
- ・ 家康が亡くなったのはこの 2 年後、享年 75 であった。

以上

- 参考資料 -

- 「日本巡察記」ヴァリニャーノ 松田毅一他訳 1973 年 3 月 東洋文庫
- 「豊臣秀吉」小和田哲男 中公新書 1985 年 11 月
- 「完訳フロイス日本史 # 1～5」松田毅一、川崎桃太訳 中公文庫 2000 年 1 月～5 月
- 「秀吉の朝鮮侵略」北島万次 山川出版社 2002 年 2 月
- 「織豊政権と江戸幕府」池上裕子 講談社学術文庫 2009 年 9 月
- 「戦国日本と大航海時代」平川 新 中公新書 2018 年 4 月
- 「地区の歴史」織田武雄 講談社学術文庫 2018 年 5 月
- 「豊臣外交」大阪城天守閣 2019 年 9 月
- 「ルイス・フロイス」五野井隆史 吉川弘文館 2020 年 2 月
- 「キリシタン教会と本能寺の変」浅見雅一 角川新書 2020 年 5 月
- 「戦国争乱」中央公論社 2020 年 11 月
- NHK BS 「大戦国史－激動の日本と世界」2020 年 9 月
- 「16 世紀『世界史』の始まり」玉木俊明 2021 年 4 月 文春新書
- 「教養としての『戦国時代』」小和田哲男 PHP 新書 2023 年 3 月
- 「日本史年表」「世界史年表」山川出版社
- 「Wikipedia」各項目および関連 WebSite

以上

＜年表：大航海時代と 信長・秀吉・家康＞					
世紀	西暦	和暦	月	出来事	西欧・イェズ会 P:ポルトガル S:スペイン
1470年代	1477			応仁の乱終わる (1467～)	1479 S:イスパニア (スペイン) 王国成立
1480年代					1488 P:5月 バルメトロウ・ディアス 喜望峯発見
1490年代	1497	明応6		毛利元就生	1492 S: 8月 コロンブス サンサルバドル島、新大陸発見
					1494 トリデシマス条約締結 世界分割協定
					1497 P: 7月 ヴァスコ・ダ・ガマ リスボン出港 11月喜望峯通過
					1498 P:5月インド洋直接横断カリカット着
1510年代					1510 P:ゴアを占領 翌年スマトラジャワへ
1520年代	1521	大永元	11月	武田信玄 生	1519 S: 8月 マゼラン艦隊スペイン出航
					1520 S:10月 マゼラン海峡発見 太平洋へ入る
					1521 S:3月マゼラン フイリピン到着
					1522 S:9月 マゼラン艦隊スペイン帰着 初の世界周航
					1529 サラゴサ条約締結 世界分割協定
1530年代	1530	享祿3	1月	上杉謙信 生	
	1534	天文3	5月	織田信長 尾張国那古屋城に生	1534 イェズ会創設、ザビエル等6人の同志
	1537	天文6	2月	豊臣秀吉 尾張国中村に生	
1540年代	1542	天文11	12月	徳川家康 駿河岡崎城に生	
	1543	天文12	8月	種子島氏 ポルトガル船商人より鉄砲購入	1549 7月フランシスコ・ザビエル、鹿児島到着 (キリスト教伝来)
1550年代	1554	天文23	5月	桶狭間の戦い 信長今川義元を破る	1562 7月大村純忠 横瀬浦の半分をイェズ会へ
1560年代	1567	永祿10		信長 尾張・美濃領主	1563 6月 大村純忠受洗 初キリシタン大名
	1568	元亀元	9月	信長 足利義昭を擁して入京	7月 フロイス長崎横瀬浦に到着
			9月	石山合戦 始まる 本願寺挙兵	1569 4月 フロイス 織田信長に謁見
1570年代	1571	元亀2	9月	比叡山焼き討ち	1570 6月 カブラル オルガンティノ 天草着
	1573	元亀4	7月	信長、將軍義昭を追放 (室町幕府滅亡)	1571 10月フロイス オルガンティノ岐阜で信長謁見
			8月	信長、朝倉・浅井両氏を亡ぼす	1574 4月フロイス カブラル、オルガンティノ、相国寺の信長訪問
	1575	天正3	5月	長篠の戦い 信長・家康連合軍、武田勝頼を破る	1575 3月 フロイス、オルガンティノ、相国寺に信長訪問
	1576	天正4	2月	信長、近江安土に築城	1576 7月オルガンティノ 京都「南蛮寺」完成
	1577	天正5	10月	秀吉 中国方面五国平定	1579 7月ヴァリニャーノ 長崎・ロノ津港到着
1580年代	1580	天正8	8月	石山合戦 終結 教如石山本願寺退去	1580 スペインによるポルトガル併合
	1581	天正9	2月	信長 禁裏馬場で馬揃え	1581 2月 ヴァリニャーノ、フロイス等、本能寺の信長訪問
	1582	天正10	3月	備中高松城攻略 水攻めへ	3月 安土城訪問
	1581	天正9	6月	本能寺の変 山崎合戦 清須会議	1582 3月 ヴァリニャーノ信長と本能寺で会う
	1583	天正11	4月	秀吉、賤ヶ岳合戦 (秀吉の覇権確立)	
	1584	天正12	11月	小牧・長久手の戦い 織田信勝・家康と和睦	1584 コエリョ フイリピンからの艦隊派遣を求める。
	1585	天正13	7月	秀吉 関白へ 四国平定 長宗我部元親降伏	
	1586	天正14	12月	秀吉太政大臣 豊臣姓を授かる	1586 コエリョ フロイス、オルガンティノ、等と秀吉訪問 歓待される
	1587	天正15	5月	九州平定 島津義久、秀吉に降る	1587 5月 フロイス、コエリョ、肥後八代で秀吉に謁見
			6月	バレン追放令発令 長崎直轄領	6月秀吉 博多でフタ船試乗
	1589	天正17	6月	対馬・宗義智 自ら朝鮮国王に拝謁、通信使派遣を求める	
			7月	小田原征伐 朝鮮通信使来日	
			8月	奥州仕置完了 全国統一	
1590年代	1591	天正19	1月	秀長没 8月鶴松病没	1591 閏正月 ヴァリニャーノ聚楽第で秀吉にインド副王国書奉呈
			12月	秀吉太閤、関白職を秀次に譲る	
	1592	天正20年	1月	文祿の役 出陣命令発令	
			4月	小西行長等釜山上陸 5月漢城入	
	1593	文祿2	1月	明軍平壤攻撃、豊臣軍平壤放棄	
			8月	秀頼誕生	
			9月	明使、名護屋到着 講和交渉	
	1595	文祿4	7月	秀次 出家 切腹	
	1596	文祿5	5月	秀吉、明冊封使引見、追い返す。	1596 サンフェリペ号土佐漂着
	1597	慶長2	1月	慶長の役 第二次朝鮮出兵	1597 7月フロイス 大村領長崎で没 65歳
	1598	慶長3	8月	秀吉、伏見城に病没。在韓諸將召還	1598 9月 フェリペ2世没
17世紀	1600	慶長5	3月	オランダ船リーフデ号、豊後漂着。	
			9月	関ヶ原合戦	
	1605	慶長10	4月	將軍秀忠へ 家康大御所	1605 ウィリアム・アダムス (三浦按針) 旗本へ
	1609	慶長14	5月	オランダ国大使節平戸来着 6月駿府で家康に謁見	
	1609	慶長14	9月	スペイン船サン・フランシスコ号御宿で遭難 ドン・ロドリゴ江戸で秀忠表敬訪問 駿府で家康謁見	
	1610	慶長15	8月	ドン・ロドリゴ アダムスの建造船で帰国	
	1611	慶長16	5月	スペイン国王使節ビスカイノ浦賀来着 駿府で家康謁見	
	1613	慶長18	(6月)	イギリス国王使節ジョン・セーリス平戸着 8月駿府で家康謁見	
	1614	慶長19	10月	大坂冬の陣	
	1615	慶長20	5月	大坂夏の陣	
	1616	元和2	4月	家康没す	